おすすめ商品情報　HEALSIO ヘルシオ ジュースプレッソ　TV でも話題の 「スロージューサー」

低速圧縮して絞るから素材の美味しさと栄養をそのまま

野菜・果物はもちろん、
今まで絞れなかった食材まで！
（写真は豆乳）

絞った後の絞りかすを使って！
カップケーキ

秘密は低速圧縮絞り！

■１分間に３２回転という低速圧縮絞りだから、濃厚でなめらかなジュースに。時間が経っても分離しにくい。

■低速圧縮絞りだから素材のもつ香りや味をそのままで栄養価の高いジュースになる。毎日の習慣に！

金属刃を使わず、お手入れ簡単！

「フィルター一体型スクリュー」
■金属刃を使わず安心
■ジュースのしずくが垂れない
■パーツの数が少なくお手入簡単！
■食器洗浄機で洗える
■運転音が小さい

Cooking 秋鮭のトマトクリームパスタ

トマトの酸味と生クリームのコクが食欲をそそります。鮭は薄力粉をまぶして焼くことで身くずれを防ぎ、ソースとの絡みがよくなります。

■材料（４人分）

パスタ	４００ｇ
生鮭	２切れ
にんにく	１かけ
塩・こしょう	
薄力粉	大さじ１
オリーブオイル	大さじ１
トマト水煮缶	１缶（400ｇ）
赤ワイン	大さじ２
生クリーム	１/２カップ

■作り方
1．鮭は骨と皮を取り除き、そぎ切りにする。塩こしょうで下味をつけ薄力粉をまぶしておく。
2．フライパンにオリーブオイル・にんにくを入れて弱火にかける。香りが出てきたら中火にし鮭を入れて両面を焼く。
鮭の色が変わったら、トマト水煮と赤ワインを入れ５分ほど煮る。
3．２に生クリームを加え、煮立ったら塩こしょうで味をととのえる。
4．たっぷりのお湯でパスタをゆでて、ザルにとって湯をきる。
5．３のフライパンに４のパスタを入れ、手早く絡める。
6．器に盛り、お好みでこしょうをふり、いただきます。

編集後記

今年の秋、といったら！
「マツタケ豊作！」でしょう。
マツタケは土壌が浅く、下の岩が出ているような場所に生えます。そうした地面は表面がツルツルした松の葉が覆い滑りやすい‥。長野県内でもキノコ採りに出掛けた人が滑落したり遭難する事故が多発しているとか。
秋のキノコ採り、春の山菜採りはひじょう～に楽しい！その昔夢中になりすぎて山奥深く入り込み迷子なった経験のある自分は、キノコと山菜は「いただくもの」と決めています‥‥　（ECOnews　担当）

ヤマザキ ECOnews 19
太陽光は無尽蔵な自然エネルギー
平成 25 年 10 月 15 日発行

■編集発行人　ヤマザキ太陽光発電事業部
■発行人住所　長野県上田市国分 533-32（旧サンアイ前）
0120-334-810　FAX 0268-27-3336
e-mail：taiyo-plaza@yamazaki-ind.jp
■ホームページ　http://www.yamazaki-ind.jp

ヤマザキ ECOnews 19

太陽光は無尽蔵な自然エネルギー

■再エネ発電設備導入状況
■定置型リチウムイオン蓄電池システム
■お客様の声
■ザ・りんご
■おすすめ商品情報「スロージューサー」
■Cooking　秋鮭のトマトクリームパスタ

平成 25 年 6 月末の再エネ発電設備導入量　約 9 割が太陽光発電！

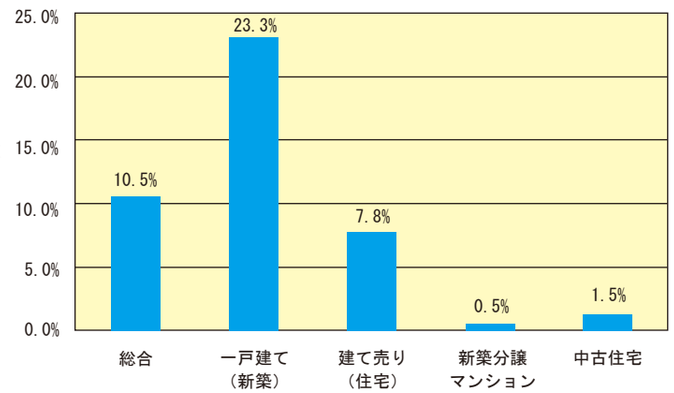
経済産業省資源エネルギー庁は、平成 25 年 6 月末時点での再生可能エネルギー発電設備の導入状況を取りまとめて発表した。

下記表をみると、**太陽光（非住宅）**の導入量は順調に継続し、25 年度は 3 ヶ月で 141.6 万 kW と 24 年度の 2 倍にものぼっている。**太陽光（住宅）**も 41.0 万 kW となり年度末には 24 年度を上回る見込みだ。
固定価格買取制度施行後の発電設備全体の導入量は、累計で 366.6 万 kW でうち太陽光が約 9 割となった。

設備導入量（運転を開始したもの）			
	固定価格買取制度施行前	固定価格買取制度施行後	
	平成24年7月までの累積導入量	平成24年度（7月～3月）	平成25年度（4月～6月末）
太陽光（住宅）	約470万　kW	96．9万　kW	41．0万　kW
太陽光（非住宅）	約90万　kW	70．4万　kW	141．6万　kW
風力	約260万　kW	6．3万　kW	0．3万　kW
中小水力（1,000kW以上）	約940万　kW	0．0万　kW	0．0万　kW
中小水力（1,000kW未満）		0．2万　kW	0．0万　kW
バイオマス	約230万　kW	3．0万　kW	6．8万　kW
地熱	約50万　kW	0．1万　kW	0．0万　kW
合計	約2，060万　kW	176．9万　kW	189．7万　kW

躍進する太陽光発電システム

住宅金融支援機構は、2011年度に引き続き、2012年度の住宅取得に係る消費実態調査を実施した。
同調査は、住宅取得に伴う耐久消費財への支出の動向及び、消費を取り巻く環境等に関する見通しを調査したもの。
この調査で、「太陽光発電システム」を購入した住宅は2011年度と比較して3.7%上昇し、10.5%に達したことがわかった。
特に、一戸建て(新築)では23.3%（前年度の新築一戸建ての購入世帯比率の8.3%増）で、2割を超えた。
また、新築一戸建て一世帯あたりでの太陽光発電システムの平均購入額は1,965千円となっている。
（一戸建て（新築）の回答者は511世帯で、年齢39.1歳、家族数3.5人）



住宅取得時、太陽光発電システムの購入世帯比率

ソーラーシェアリング　敢えて二兎を追う！

農地で農業を営みつつ、頭上にパネルを張り巡らして、同時に太陽光発電を行う。これが、「ソーラーシェアリング」あるいは「営農型太陽光発電」と呼ばれる事業形態である。
日本の食糧自給率がわずか39%しかないことはよく知られている。ところが、それ以上に自給率が低いのがエネルギー。原子力を「国産」とみなすこともあるが、現状ほとんど意味はない。原発が停止した今、エネルギーの自給率は4%にまで落ちている。そういう中で、食糧とエネルギーの生産を同時に増加させるために日本は、「二兎を追う」ことが必要か!?

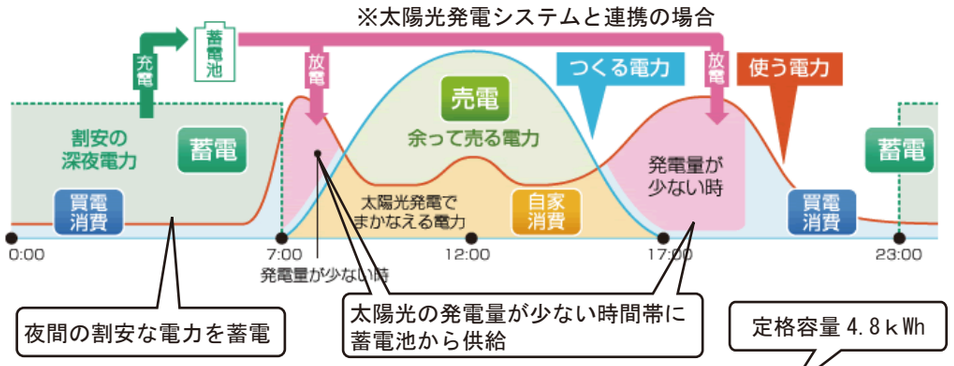
定置型リチウムイオン蓄電池システム

もっと節約、しっかり備え。
電気をつくって蓄える暮らしへ。

平常時

経済性モード

電気を一番使い少し割高なホームタイム時。
（E ライフプランの場合）
太陽光からの発電も少ない時間帯です。その時に蓄電池から使用します。



クリーンモード

夜間の蓄電ではなく、昼間太陽光で発電して余った電力を蓄電します。
そして発電量が少ないホームタイム時（E ライフプランの場合）などに使用。割高な電気使用量を抑えることができます。
ただし売電量は減少します。

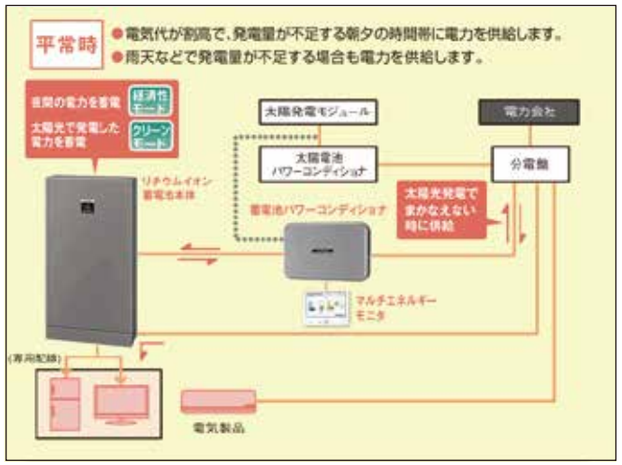
充電モード

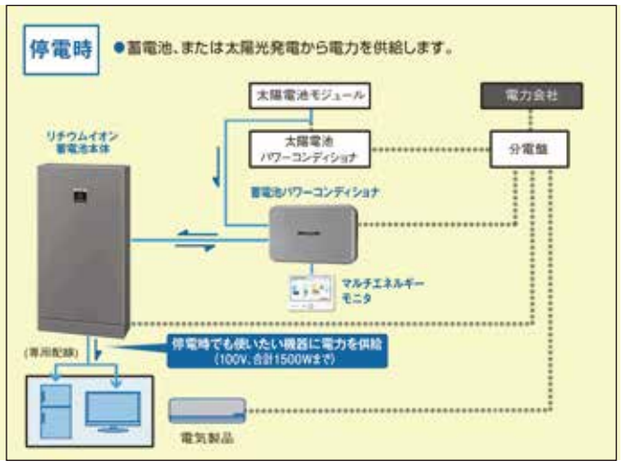
蓄電残量が少ない場合など、蓄電池への充電を優先的に行うモードです。
非常時に備えて蓄電量を増やす場合に使用します。

停電時

停電時は、蓄電池から電力供給を行い、テレビや照明など接続した機器を一定時間使用することができます。太陽光発電システムと併用している場合は、発電しながら余剰分を蓄電するため、より長く電力を使用でき、停電時にも安心です。

■平常時と停電時の電気の流れ





■リチウムイオン蓄電池の疑問

Q: メンテナンスは？　A：定期的なメンテナンスは不要です。
Q: どのくらいもつの？　A: 約 8,000 回の充放電を繰り返しても 70% の容量を確保します。
Q: 停電時の充電は？　A: 太陽光発電システムと連携している場合は、発電時には充電できます。
Q: 太陽光発電システムは現在設置しているけど、追加で蓄電池を設置できるの？
A: 設置できます。停電時に使用する電気機器は専用コンセント（工事により設置）に接続しておく必要があります。
Q: 補助金は？　A: 残念ながら国の補助金は終了しました。県により補助金がある場合があります。（条件あり）

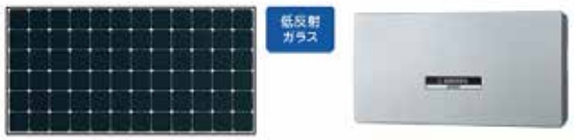
お客様の声

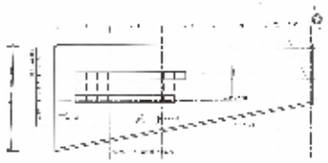
一歩先に太陽光発電のある生活をスタート

今年 5 月、当社山﨑社長の自宅屋根にシャープの単結晶モジュール NB-245AB、50 枚、12.25kW を設置工事しました。
既設の太陽光発電システム 4.0ｋW を別棟に移設しての今回の新設となりました。

このモジュールはサイズが 1,559 x 798mm と細身。さらに 245W と高出力でモジュール変換効率 19.7% とトップクラスであるため、一般住宅の屋根であっても比較的大容量のシステムの形成が可能です。
バックコンタクト方式なのでデザインもスマートで高級感があります。
8 月 9 月の売電量は「非常に良く順調」とのことでした。

△NB-245AB、新設





△既設モジュール移設

ザ・りんご！～10 月から 11 月中旬までのりんごたち～

シナノスイート　（ふじｘつがる）
長野県生まれの新しい品種
果汁が多く香りもよく、少ない酸味が特徴。みずみずしく、甘みが勝り極めて美味。

秋映　（千秋ｘつがる）
シナノスイート・シナノゴールドと共に長野県で生まれた「シナノ３兄弟」のひとつ。
完熟すると暗紅色になるのが特徴。標高が高く寒い地域で収穫されたものは黒に近い赤になる。

シナノゴールド
（千秋ｘゴールデンデリシャス）
長野県生まれの新しい品種
甘みのバランスがよく歯切れのよい緻密な肉質。外観・食味・貯蔵力と三拍子そろったりんご。

ふじ
日本での生産量が一番多い品種。
とてもみずみずしく甘みが強く、ミツが入り濃厚な味わい。
日持ちが良いので年を越しても美味しい。贈答に最適。

最近よくいただく質問です･･･
Q:認定を取得すれば着工はいつでもいい?

経産省、FITの「枠とり事業者」に報告徴収

2013年9月中旬、経済産業省から固定買取制度の設備認定取得者（400kW超）に一斉に「報告の徴収」が送付されました。

枠だけを取って工事に着工しない事業者を許さない混乱する再生可能エネルギー市場に、経済産業省が明確な意思表示を行ったということです。

通知内容は･･･
『認定設備の中には、着工が遅れており、平成24年度の調達価格（42円/kWh）を維持するのに相応しいかどうかを改めて検証する必要のあるケースが生じております』

言うまでもなく、固定価格買取制度は、一般消費者が支払う賦課金に支えられた制度です。
この制度下で、調達価格42円の枠取りのみを行い、着工を先延ばしし、建設工事代金が下がるのを待っている ― そうした事業者が増えていることが日に日に問題視されてきています。